

重点課題

【課題1】 資料を読み、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する。(設問2四) 読むこと (正答率17.4%) 資料から取り上げるべき内容2つの内、一つしか取り上げていない児童が69.6%。

【課題2】 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える。(設問3一) 書くこと (正答率39.1%) 書き手の主張が最後の段落だけに書かれているとしている児童が26.1%。二つの段落に書かれている書き手の主張を内容が異なるとしている児童が26.1%

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】・文章を読み取る目的、要約する条件(二つ以上)を明確にして、説明的文章(新聞記事など)を読むことの練習に取り組む。

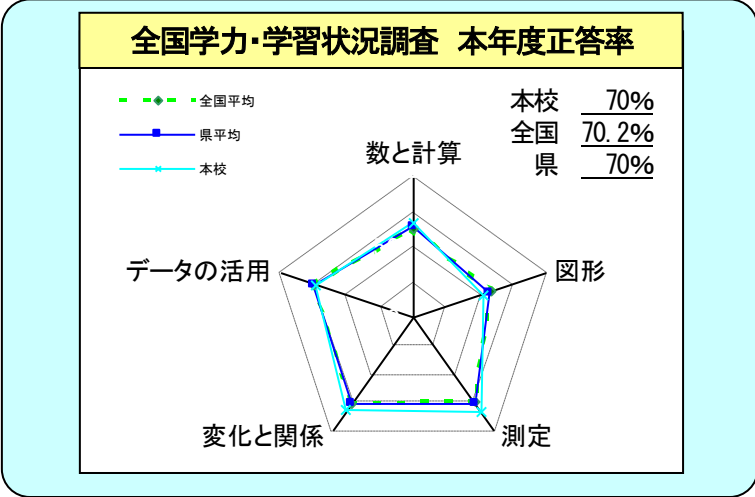
【課題2】・文章の構成要素(主張・意見・事実・事例など)ごとに用意した短冊を、再構成する練習に取り組む。

※ 小中一貫した取組については、目的に応じて文章を読み取ったり、論の進め方について考えたりしながら内容を理解し、根拠を明確にしながら自分の考えをまとめる学習を仕組んでいく。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		5年生 復習テスト		全学年 ベネッセ 学力調査		5年生 R3「全国学力」	5年生国語テスト (自校作成)
目標値		65%		65%		65%	65%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		5年生 復習テスト		全学年 ベネッセ 学力調査		5年生 R3「全国学力」	5年生国語テスト (自校作成)
目標値		65%		65%		65%	65%
実施後数値							

来年度に向けて



重点課題

【課題1】 直角三角形の面積を求める式と答えを書く。(設問2(1)) 図形 (正答率34.8%) 直角三角形の底辺を捉えることができていない児童が17.4%。

【課題2】 帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く。(設問3(4)) データの活用 (正答率34.8%) 割合が同じくらいの項目を選んでいる児童が43.5%。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】・問題解決において、数、式、図を、数学用語を用いながら伝え合う場を設定する。

【課題2】・問題文に線や印をつけながら、問われていることを明確にすることを習慣化する。

※ 小中一貫した取組については、問題解決の過程を振り返り、数学用語を適切に用いて説明する学習を行い定着を図るとともに、複数の資料を関連付けて思考する学習活動を仕組んでいく。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		5年生 復習テスト		全学年 ベネッセ 学力調査		5年生 R3「全国学力」	5年生算数テスト (自校作成)
目標値		65%		65%		65%	65%
実施後数値							

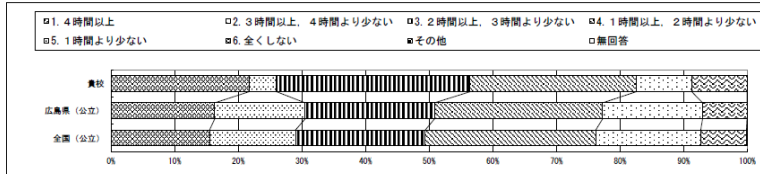
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		5年生 復習テスト		全学年 ベネッセ 学力調査		5年生 R3「全国学力」	5年生算数テスト (自校作成)
目標値		65%		65%			65%
実施後数値							

来年度に向けて

質問紙調査 (全国学力・学習状況調査：児童質問紙調査) (児童生徒学習意識等調査：児童質問紙調査)

(1) 生活・学習

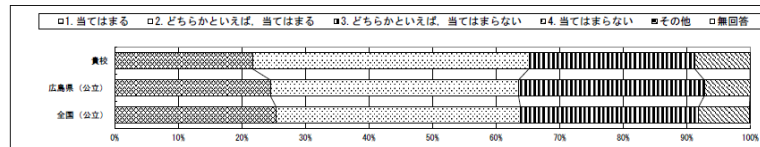
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか



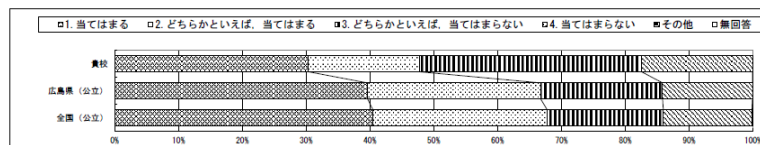
	児童の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
全国・学習意識等	テレビゲームの使用時間について、平日に、2時間以上使用する児童が56.4%と半数を超えている。中でも、4時間以上使用する児童が21.7%おり、家庭学習や読書習慣の定着、学習意欲に影響していると考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ゲームを中心としたメディアの影響について、児童、及び保護者に啓発し、家庭でのルールの見直しを促す。 小中一貫した取組として、ノーメディアデーを設定し、児童自身がメディアとの付き合い方を振り返りながら生活できるように促す。 	全	使用時間2時間以内の児童70%	児童アンケート	2学期末	

(2) 教科

国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか。



算数の勉強は好きですか。



	児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
国語	自分の考えを話したり、必要に応じて質問したりすることに、「当てはまる」とした児童が21.7%。一方「どちらかといえば、当てはまらない」とした児童が26.1%。偏りがある。	<ul style="list-style-type: none"> ペアトークを取り入れ、全員が自分の考えを話す場面を設定する。その際、疑問点、詳しく知りたい点について質問するなど、双方向のやりとりができるようにする。 	全	肯定的評価70%	児童アンケート	2,3学期末	
算数	肯定的評価をした児童が47.8%、否定的評価をした児童が52.2%と、否定的評価をした児童が上回っている。「算数の授業内容はよく分かりますか」という質問事項に対して「当てはまる」とした児童が47.8%であることと併せて考えると、学習内容の理解度、定着度が影響していると考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を学びのよりどころとし、教えるべきこと、考え説明させるべきことを明確にして、合理的な授業展開へと改善する。 1時間の授業で、練習問題まで確実に進行。 	全	肯定的評価70%	児童アンケート	2,3学期末	